

2023年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

教育目標・教育方針

◎自己評価に関しては、学期毎に評価し、それを基に、教師会で話し合い課題を共有し、教師の質や保育のレベルアップに努めている。

1学期の終わりに行った話し合いでは、この第一項目は基本的なものであり、その項目のレベルアップを目指し、各自が努力することを確認した。入職の時期も異なることから、全員が同じレベルに達するにはまだまだ十分ではないが、努力はうかがえる。そしてなにより大事なことは、キリスト教を理解し、当園の教育目標を深く正しく理解するために、正教職員17名が週毎の礼拝出席を重んじ、努力していることは大いに評価できる。

保育への取り組み

◎今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行になり、様子を見つつ、行事をいくつか再開することが出来た。しかし、インフルエンザや溶連菌など他の感染症も流行し、クリスマスや発表会はクラス全員揃っての練習がままならぬまま当日を迎えたが、子ども達のその活動への意識と自主性が高く、どの学年も「やろう！」という気持ちを持って発表することが出来た。中には、観ているものを感動させるものもあった。子ども達の自主性を尊重し、意識を高めてきた。教師達の働きは大きかったと感じる。そのことは、自己評価の結果にも出ており、各項目の数値が上がっていることで分かる。

◎いつも低かった防犯マニュアルについて、話し合いシュミレーションに沿って、実際に教師達が動いて訓練したことはよかった。防犯用具もそれまで置いていた場所ではいざという時、役に立たないことが判明し、場所を変えたり、子ども達の安全を守るためには何が大切かを共有し合うことが出来た。

◎今年度は「カレンダーマーチ～4Season～」ということで四季をテーマにし、子ども達にとっては身近なものであったが、それぞれの学年が担当した四季の一つを1年を通して活動に取り入れ、深く見つめることで、子ども達の四季への知識が増し、興味がさらに広がったように思う。又、日本の四季が、神さまからのおおきな恵みであることに気付くことも出来た。

- ◎当園では教師一人一人が自己研鑽のために、自分で課題を選び、そのことを追求することで、各自の専門性を高めることをしてきた。(例えば手遊びを調べて提供する、ピアノの練習に力を入れる、集団遊びを子ども達に提供し、集団遊びの楽しさを子ども達と共有するなどなど)
しかし、今年度は、自己評価の項目の中から自分の苦手なもの、又は興味のある項目を選び、そのことを意識して保育を行ってきた。その結果、教師の働きかけによって、子ども達が良い刺激を受け、様々な経験に繋がり、又、クラス作りに良い影響が見られた。
- ◎2024年1月1日に起きた能登半島地震は、子ども達に大きな衝撃を与えたようで、園内にも新聞記事を掲載したり、礼拝の時そのことを取り上げたりしてきた。子ども達も日頃のテレビやニュースなどを観ることで、自分達にも何か出来ないかという思いが、子ども達から出るようになった。そこで年長児が全クラスに発信し、募金箱を各自が作り、それを家に持ち帰ってお手伝いなどをして、お家の人に募金を入れてもらおうということになった。関係のある教会(釧路教会、釧路虹の教会、釧路のぞみ教会)にも募金箱をおいて頂くよう年長児が依頼に行った。ただ、それだけではなく、募金してもらった人にありがとうのプレゼントを作ろうとキーホルダーやしおり、シールなども作り、持ち帰ってもらうために募金箱の側に置くことにした。募金中各クラスでは、「昨日お手伝いしてママに〇円いれてもらった」「ぼくも」「わたしも」といった会話が交わされ(小さいクラスも)、子ども達の募金への意識の高さが伺えた。もちろん、保護者の協力があったことは大きい。

組織運営

- ◎幼稚園型認定こども園に移行して6年。当初の利用定員、又収容定員数が大幅に変動してきたことから、今年度はその変更手続きを行う。

2024年度への目標

- ◎自己研鑽は、今年度のように自己評価の項目の中から、各教師が自分で選び、その項目のレベルアップと共に、自己のプロの教師としての質を高める。
- ◎自己評価の項目をどの職員配置にある教師でも、しっかりと評価できるように、主語をはっきりと明記し、分かりやすい文章とする。
- ◎2023年度の募金活動から、子ども達は私達大人が思っている以上にテレビのニュースなどを見て心を痛めていることを知った。そのことから、世界で起こっている戦争、災害、貧困、そして地球温暖化による様々な変化など、地球レベルのことを園内に持ち込み、子ども達と一緒に考え、自分達の出来ることを活動の中に取り入れる。それには、教師達自信が、今まで以上に世界に目を向け、敏感になることが求められる。
- ◎発行が遅れていた「新キリスト教保育指針」が発行され、新年度は教師会でその本で学びの時を持ち、当園の教育目標やカリキュラムなどを見直す。
- ◎シフト制により、日々の打ち合わせに出席出来ない教師が増え、教師同士の共有に不十分な所が見えてきた。又、パート教師が増えたことにより、今まで担任が行っていた作業をパート教師に担ってもらうことで、助かることはメリットだが、その反面、手を掛けないことで細かいことに気付けないというデメリットも出てきた。新年度は、どの教師も教師の打ち合わせには出席し、共有・連携を持てるようにする。又、作業も進み具合を互いに報告し、全員が現状を把握するよう努力する。

学校関係者評価委員会実施報告

委員会…年3回

1. 2023年6月16日（金）
園内研修に参加。公開保育を参観後、午後協議会
2. 2022年10月27日（金）
にこにこクラブ「お買い物ごっこ」の参観後、話し合う
3. 2024年3月8日（金）
3月お誕生会を参観後、2022年度の教師の自己評価を基に話し合い、委員会としての評価をまとめる

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今度の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2023年度評価

◎いつ来園しても、子ども達への視覚刺激や四季折々の装飾が新鮮で、教師達の環境構成への意識が高いことを感じる。手のかかることではあるが、今後もその姿勢を持ち続けてほしい。

又、能登半島地震の新聞の切り抜きや、ユニセフのポスターなども掲示してあり、そういう中から子ども達の「能登半島地震募金活動」が生まれてきたようだ。教師達の社会や世界への意識が高くなければ、そういった子ども達の何かしたいという思いを引き上げることは出来ない。今後も更に教師達の意識に期待したい。

◎どのクラスに行っても、子ども達の委員への挨拶は気持ち良かった。又、教師達の言葉づかいが丁寧で、子ども達の中にも良いものが蓄積されているのを感じた。ただ、小学校に入学すると、言葉づかいなどへのギャップを感じるのでは・・・その辺りも踏まえての小学校との引継ぎ対策の必要性を感じる。

◎未満児クラス（つぼみ・つくし）の補助教師が多く、手厚く保育が行われているのが分かる。ただ、補助教師やパート職員が多ければ多いほど、園の大事にしている保育の姿勢などを理解してもらうことが困難であるが、その指導や打ち合わせへの努力は続けてほしい。又、未満児クラスの補助教師達が年少以上（特に年長児）の礼拝に参加するなども、保育の軸を知る機会となるのではないか。

◎今回の自己評価で、1学期2学期評価の低かった防犯・防災への項目について、3学期に教師達の実際の訓練を行ったことで、評価レベルアップに繋がっている。又、自分達が子どもを守るために、どう動けばよいかも共有したことは、継続して取り組んでほしい。保護者に園がどのような訓練をしているのか、危機管理マニュアルなどについても発信していくことも必要。